

基本撮影 第2章

基本的な撮影	22
操作の流れ	22
電源を入れる	23
記録先のドライブを指定する	24
画質モードを選択する	25
記録モードを選択する	26
ファインダーの見かた	27
ランプ表示について	28
撮影する（静止画モード）	29
露出補正について	32

基本的な撮影

撮影操作の流れと、撮影の際に知っておいていただきたいことについて説明しています。

操作の流れ

基本的な撮影方法（静止画モードでの撮影）は、次のような流れになります。

電源を入れる

カメラのメインスイッチを [記録] にスライドします。 P.23

記録先のドライブを指定する

メモリーカードがセットされている場合、メモリーカードまたはカメラ内蔵メモリーのどちらに記録するか指定します。 P.24

画質モードを選択する

3種類（F・N・E）の画質モードより選択します。 P.25

記録モードを選択する

3種類（□・・）の記録モードより選択します。 P.26

ファインダーを確認する

ファインダーをのぞいて、被写体の位置を確認します。 P.27

ランプを確認する

レリーズボタンを軽く押して、撮影状況（オートフォーカスランプ）を確認します。 P.28

撮影する

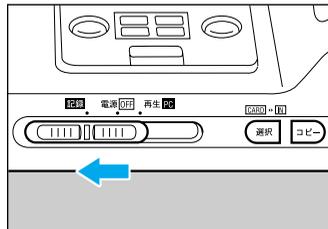
レリーズボタンを押して撮影します。

電源を入れる

メインスイッチをスライドさせると電源が入ります。メモリーカードがセットされている場合、情報パネルにカードマークを表示し、メモリーカードのデータチェックを行います。

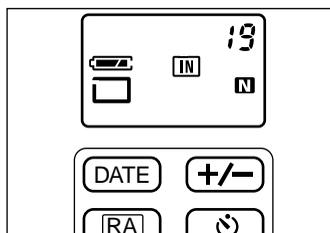
①メインスイッチを [記録] にスライドします。

レンズカバーが開きます。



電源が入り、情報パネルが表示されます。

- 補足
- ・メモリーカードがセットされているときは、情報パネルにカードマークを表示します。
 - ・メインスイッチを [電源OFF] にスライドすると電源が切れ、レンズカバーが閉まります。



コラム

オートパワーオフについて

メインスイッチを [記録] にスライドした状態で、約5分以上カメラの操作(レバーやボタンの操作)をせずに放置しておくと、節電のため「オートパワーオフ」になり、情報パネルの表示が消えます(わずかながら電池を消耗しています)。電源の再投入がリリースボタンを軽く押すと、再び電源が入ります。

モードの解除について

電源が切れると、設定していたモードが解除されることがあります(下表参照)。同じモードで撮影したいときは、モードを再設定してください。

モード名	オートパワーオフ	メインスイッチを切ったとき
ドライブの指定		×
記録モード		
画質モード		
露出補正	×	×
モニタリング機能撮影	×	×

○ : 設定の保持

× : 設定の解除

長時間使用しないときは、メインスイッチを [電源OFF] にしてください。

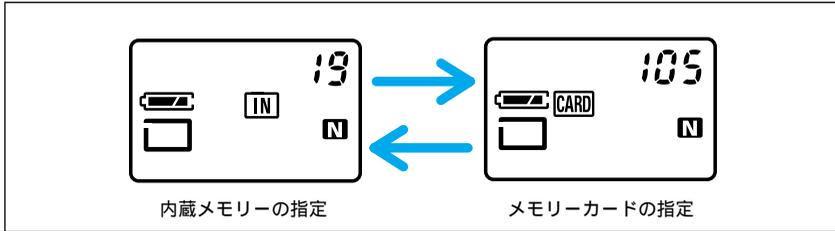
オートパワーオフの設定を解除することもできます。詳しくは「オートパワーオフの設定」P.57をご覧ください。

記録先のドライブを指定する

撮影したデータを、カメラ本体の内蔵メモリーに記録するか、セットしたメモリーカードに記録するかを指定します。

モード表示の移り変わり

メモリー選択ボタンを押して、記録先を切り替えます。



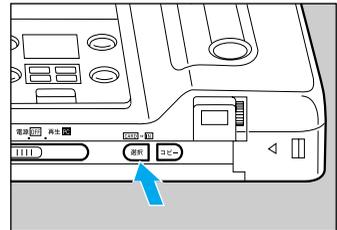
補足 ・各操作でドライブを指定するときも、同様に操作します。

記録先のドライブの指定

- 1 **メモリー選択ボタンを約1秒押して、記録先を指定します。**

情報パネルに指定した記録先のマークが表示されます。

参照 記録できる枚数について P.72「記録枚数について」

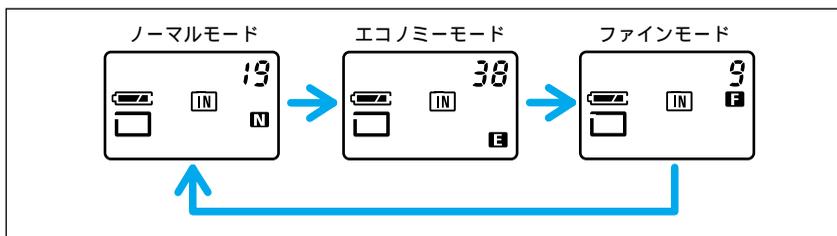


画質モードを選択する

データの圧縮・伸長技術を使って、多くの情報を記録できるように処理しています。N（ノーマル）モードを基準に、画質を優先したF（ファイン）モード、記録枚数を優先したE（エコノミー）モードがあります。用途にあわせて画質モードを切り替えてお使いください。

モード表示の移り変わり

画質モードボタンを押して設定します。



画質モードの選択

- 1 画質モードボタンを押して、画質モードを選択します。

情報パネルに選択したマークが表示されます。



データの目安

画質モード	撮影時のデータサイズ
Fモード	約 192KB/画面
Nモード	約 96KB/画面
Eモード	約 48KB/画面

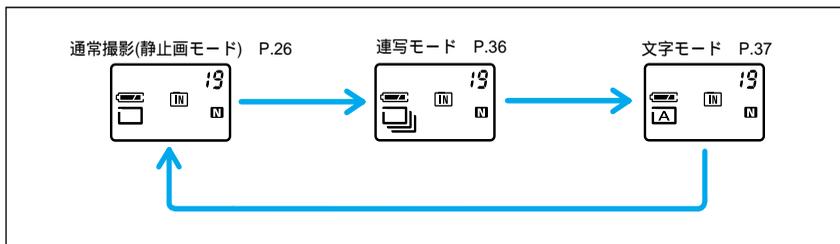
参照 画質モードを切り替えたときの記録枚数について P.72「記録枚数について」

記録モードを選択する

静止画や連写など3種類の記録モードがあります。用途にあわせて記録モードを切り替えてお使いください。

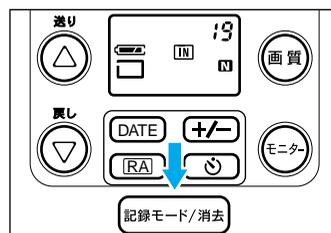
モード表示の移り変わり

記録モード / 消去ボタンを押して設定します。



静止画モードの選択

- 1 記録モード / 消去ボタンを押して、情報パネルに□マークを表示させます。



ファインダーの見かた

ファインダーをのぞいて被写体をとらえます。

- 重要** ・撮影距離が約0.25m以下での撮影や、微妙なフレーミングを要求する場合は、前もってテスト撮影して、モニターで撮影される範囲を確認してください。

撮影範囲枠

撮影したいものをこの中におさめてください。

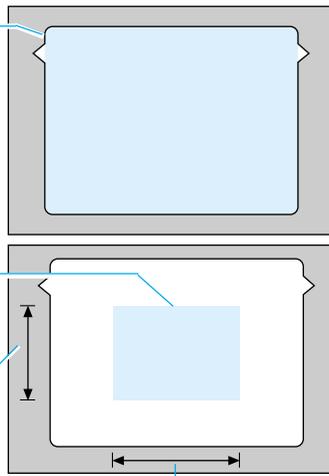
オートフォーカス範囲

ピント合わせが行われる範囲です。
ファインダーの中央部にあります。

縦方向は中央部より上下に約1/2ずつ

横方向は中央部より左右に約1/2ずつ

- 補足** ・説明のためファインダー内を色分けしています。実際には色づけしている部分は、表示されません。



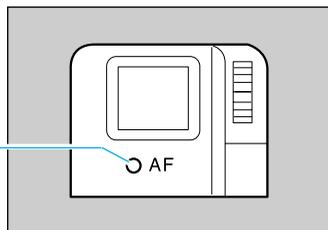
2

基本撮影

ランプ表示について

ファインダーの下にあるオートフォーカスランプは、リリースボタンを軽く押すと、点灯や点滅をして、状態を知らせます。

オートフォーカスランプ（緑）



オートフォーカスランプ（緑）

表示状態	意 味	シャッター	参照ページ
点 灯	ピントが合いました	切れます	P.29
はやい点滅	ピントが合わないことがあります	切れます	P.30
おそい点滅	モニターで撮影範囲を確認して撮影してください*1	切れます	P.30

*1: 被写体までの距離が約0.25m以下の場合、ファインダーからの視野と撮影される範囲が大きくなります。このように近距離の撮影には、モニタリング機能、マクロ撮影をおすすめします。

参照 P.40「モニタリング機能撮影」、P.42「マクロ撮影」

撮影する（静止画モード）

ここでは、基本的な静止画モードの撮影方法を説明します。カメラが動かないように正しく構えてください。

参照 P.19「カメラの構えかた」

① ファインダーをのぞき、撮影したいものにカメラを向けます。

補足 ・被写体までの距離が約1～25cmの撮影では、モニタリング機能またはマクロ撮影をおすすめします。

参照 P.40「モニタリング機能撮影」、
P.42「マクロ撮影」

② 人さし指の腹でリリースボタンを軽く押します。

リリースボタンは2段階になっています。軽く押すとオートフォーカスが作動する音が出てピント合わせが行われ、さらに押しきると記録されます。

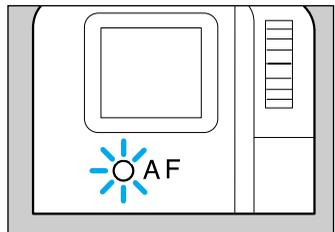
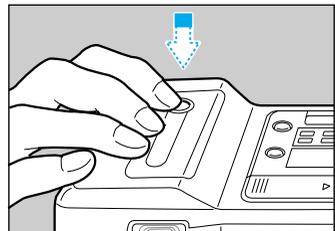
補足 ・オートフォーカス範囲に見えるものにピントが合います。被写体がオートフォーカス範囲の中央からはずれているときは、フォーカスロックで撮影してください。

参照 P.39「フォーカスロック撮影」

被写体にピントが合うと、緑色のオートフォーカスランプが点灯します。

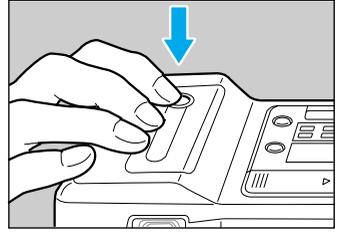
補足 ・オートフォーカスが作動する前にリリースボタンを押しきると、被写体のピントは合わないことがあります。オートフォーカスランプの点灯を確認してから操作してください。

参照 オートフォーカスランプ P.28「ランプ表示について」



③ そのまま指を離さずに、リリースボタンを静かに押しきります。

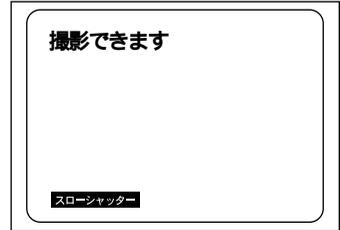
「ピッ」というブザー音（確認音）が鳴り記録されます。情報パネルの残り記録枚数の表示がひとつ少なくなります。



- 【補足】
- ・液晶モニターやテレビにカメラを接続すると、撮影した内容を約3秒間表示します。撮影の確認が容易にできます。
 - ・ブザー音をならないように設定できます。

【参照】 P.58 「ブザー音の設定」

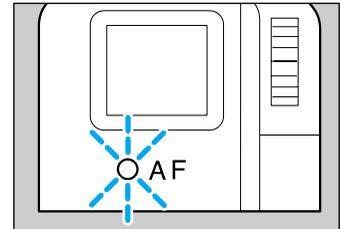
暗いところを撮影するときなど、リリースボタンを軽く押したときにモニターに「スローシャッター」の表示がでます。



- 【重要】
- ・「スローシャッター」の表示がでたときは、シャッタースピードが遅くなりますのでカメラブレに注意してください。できるだけ、三脚などですっかりカメラを固定して撮影してください。

被写体に近づきすぎた場合、またはピントの合いにくい被写体にピントを合わせようとした場合は、ピントを合わせられないことがあります。このとき緑色のオートフォーカスランプが点滅します。（撮影はできます）

このようなときは次のように行くと、フォーカスの合った撮影ができます。



- ① 少し離れて撮影する
- ② モニタリング機能を使ってピントを合わせる
- ③ 写したい被写体と同じ距離にある、違う被写体にピントを固定する

【参照】 モニタリング機能について P.40 「モニタリング機能撮影」
ピント固定について P.39 「フォーカスロック撮影」

ピントの合いにくい被写体

次のような被写体には、ピントが合わせられないことがあります。

- ・コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
- ・横線だけで、凹凸もないもの
- ・動きの速いもの
- ・低輝度（暗いところ）のもの
- ・強い逆光および反射光があるもの
- ・蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、写したい被写体と同じ距離にある違う被写体にピントを固定してから撮影してください。

参照 P.39「フォーカスロック撮影」

オートホワイトバランスについて

被写体を自然の色合いで撮影できるように、白色系の部分を基準に自動的にホワイトバランス（白いものをどんな光源の下でも白く撮影すること）を調整しています。そのため、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。

オートホワイトバランスの苦手な被写体

- ・単一色な被写体
- ・複数の光源のある被写体

露出補正について

背景と被写体との間に極端な明暗差があると、被写体の露出がアンダー（暗い）やオーバー（白っぽい）になってしまいます。このようなときに露出補正をします。また、意図的に露出アンダーやオーバーな撮影をしたいときにも使用できます。

露出補正の範囲

± 1.5EV（0.3EV ステップで設定）

逆光撮影の場合

背景が明るいので、被写体は露出アンダーになってしまいます。このようなときは + 側に数値を増やして、露出を補正します。

重要 ・逆光のときには、被写体が撮影範囲の中央にくるようにしてください。撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しないので、露出補正をしてください。

白っぽい画面を写す場合

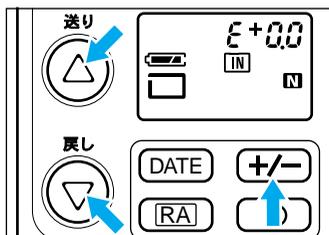
全体に白っぽい画面を写すときは、全体的に露出アンダーになり、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ってしまいます。このようなときは + 側に数値を増やして、露出を補正します。

黒っぽい画面を写す場合

全体に黒っぽい画面を写すときは、全体的に露出オーバーになり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ってしまいます。このようなときは - 側に数値を増やして、露出を補正します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様にします。

露出補正の設定

- ① + / - ボタンを押して、情報パネルに露出補正值を表示させます。
- ② ボタンまたは ボタンを押して、設定したい補正值を表示させます。
補正值を設定したら、撮影してください。



補正值を「0.3EV」進める

ボタンを押します。

補正值を「0.3EV」戻す

ボタンを押します。

設定を解除するには

もう一度 + / - ボタンを押します。

露出補正について

- ① 露出補正して記録した画像は記録後に約3秒間表示される画面または再生画面でご確認ください。
- ② モニタリング機能中に露出補正を行った場合、画面に露出補正值が表示されます。モニタリング中の画面も露出補正に対応しています（画面の明るさが変わります）。
- ③ 露出補正值は $\pm 1.5\text{EV}$ まで設定できますが、モニタリング機能で表示される画面は、以下の範囲に限定されます。
 - ・ 露出補正值： $+ 1.5\text{EV} \sim - 0.6\text{EV}$ の範囲
 - （ $- 0.9\text{EV} \sim - 1.5\text{EV}$ の範囲は①の方法で確認してください）
- ④ 被写体が暗い場合、+補正側ではモニタリング表示の画面の明るさが追従できないこともありますが、記録時には設定した露出補正值で反映されます。
 - （記録後、①の方法で確認してください）
- ⑤ 露出補正の設定を解除しても、露出補正值は保持されていますが、露出補正モード以外では露出補正した設定値は反映されません。

